

「ハイデルベルク・ストラスブール派遣 参加報告書」

京都大学文学研究科1年 今別府大介

3月21日から26日にかけてSGUの一環として企画されたハイデルベルク・ストラスブール海外研修に参加したので、それについて以下で報告する。私は、その中でもハイデルベルク大学におけるアジア研究のクラスターでカウンセラー・アシスタントを担当している方とワーキング・ランチを共にしたとき伺った話とその感想を紹介したい。まず、当クラスターで勉強したいと思った場合、まずはカウンセラーの方に経済的な面や研究分野について相談してもらえる、ということだ。こうした学生に対するケアもしっかりとしているため、不安を抱えたままクラスターでの勉強が始まってしまう、ということはないさそうである。とはいえ、このクラスターはアジア研究を中心としているため、そこで勉強しようと思う学生は自らの分野がいかに関わるかという点だけはしっかりと考えておいたほうが良い、ということである。次に、カウンセラーの方のお話を伺って私が抱いた感想としては、やはり語学の能力がドイツをはじめ海外の研究生活において必須であると痛感した、という点が第一にあった。私は、当研修に参加しようとするまでは外国語については読み・書きに比重を置いた学習をしていたのだが、やはりそうした生半可な知識ではネイティブの会話にほとんどついていくことができなかった。特に哲学や思想について勉強している学生の方々は、私のようにスピーキングをおろそかにしている人もいると思う。私自身、外国語で書かれた難解な書物を読み解くだけで十分だと高をくくっていたのだが、研究を進めていく上で当然海外の研究者とのコミュニケーションを必要になってくることを考えると、非常に危機感を覚えた。私は今回の研修では、他の参加者に助けられながら少しずつ会話に慣れていくことができたので、もっと実践的な会話やコミュニケーションの練習をしていれば今回の研修もより有意義なものであっただろうと少し後悔した。今後両大学へと留学したいと思っている方々は、もちろん私のような怠け者は少ないだろうが、外国語を話す・聞くという面も十分意識した上で日頃の学習に取り組むべきだと思われる。